

牛久：学校周辺に見る自然

第36号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月24日発行

< 動物のすみか ～ ⑪ トンボのなかま >

9/27, 10/4にひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回はトンボのなかま。



まずは、よく似たイトトンボのなかま2種。上の写真はアオモンイトトンボのおす。開けた池沼などに多く見られ、関東地方などでは分布域が北上しているそうです。腹部第8節と9節下側の水色のもようが目立ちます。

下はアジアイトトンボ。おすの水色のまようは第9節。その他、写真では分かりにくいですが、胸部がやや細めで小さいなどの違いもあります。

アオモンイトトンボのおす。腹部第8節と9節下側が水色。



アオモンイトトンボとよく似たアジアイトトンボのおす(左)とめす(右)。おすは腹部第9節が水色。

続いて、おなじみのシオカラトンボ。全国に広く分布し、また環境のよいところだけでなくあまり好まないところまで幅広く生活できるので、最もよく見られるトンボの一つといえるでしょう。若いうちはおすもめすも黄かつ色と黒のしまもようをしており、成熟してもめすは麦わら色のままなので別名「麦わらトンボ」とよばれたりしますが、おすは腹部に白い粉をふいてきて体色も青くなるので白い殻をかぶるから「塩殻トンボ」、あるいは白い粉を塩辛昆布の塩に見立てて「塩辛トンボ」と名づけられたようです。



シオカラトンボのめす(左)とおす(右)。めすは成熟しても麦わら色のままなので「麦わらトンボ」ともよばれる。



きょうぶ
胸部



きょうぶ
胸部



最後に赤とんぼのなかま。この日は、みずべ公園でよく見かける赤とんぼ4種がすべて観察できました。他の多くのトンボは幼虫(ヤゴ)で冬を越しますが、赤とんぼのなかまは卵で冬を越すため、秋に交尾、産卵のようすがよく観察されます。この日もアキアカネなど、つながって飛んでいるのも観察できましたね。

まず、ノシメトンボ。他の3種と違い、羽の端にこげ茶色の大きなもようがあるのですぐ見分けられます(リスアカネのめすはよく似ているので要注意)。

次にナツアカネ。おすは成熟すると写真のように顔もふくめ全身まっ赤になるので簡単に見分けられますが、めすは胸部のもようでアキアカネなどで見分けず。また産卵のとき、ナツアカネのめすは空中から卵をばらまきますが、アキアカネは腹端を水面に打ちつけるのでそのようすからも区別できます。

そのアキアカネです。胸部のもようで見分けられると言いました。3本の黒い帯が見えていますが、まん中の帯がナツアカネでは途中でスパッと断ち切ったようになっていますが、アキアカネでは背中側に向かって少しずつ細くなっていきます。ただしどちらも少しずつ差があるので、判断に迷うこともあります。

最後に、上の3種よりは見かけることが少ないマイコアカネ。写真はおすで、腹部はまっ赤になりますが胸部は赤くなりません。胸部のもようも他とは違いますね。そしておすで何より目だつのは、顔の青白い色。とても美しく、私の好きなトンボの一つです。めすはやや小さめなのと、胸部のもようをヒントに探してみましよう。

【理科支援員:宮内】

赤とんぼのなかま。
上からノシメトンボのめす、
ナツアカネのおす、
アキアカネ、
マイコアカネのおす。